令和4年度第1回亀岡市総合計画審議会進行管理部会 議事要旨録

日 時：令和4年7月12日（火） 午後2時00分～4時00分

場 所：亀岡市役所2階203会議室

出席者：原田禎夫部会長、手塚恵子副部会長

木村好孝委員、櫻間晴子委員、辻香委員、中西一夫委員、並河杏奈委員

欠席者：浅田信仁委員

議 題：1 開会

2 部会長選出、副部会長指名

3 議事

(1) 第5次亀岡市総合計画の進行管理・行政評価について

(2) 第5次亀岡市総合計画「事業一覧」について

(3) 令和4年度の進行管理・行政評価について

・行政評価（現地視察及びヒアリング）対象事業の選定

4 閉会

1 開会、委員紹介

2 部会長の選出・副部会長の指名

事務局

- ・部会長の選出を行う。亀岡市総合計画審議会条例第6条第3項で、委員の互選によって定めるとしている。
- ・選出について、引き続き大阪商業大学の原田委員を部会長に、事務局より提案する。

委員一同

- ・異議なし。

事務局

- ・原田委員は正面の部会長席へ移動し、一言ご挨拶を。

原田部会長挨拶

- ・普段は大学で地方財政や、プラごみの研究等に取り組んでいる。
- ・進行管理部会においては、市民目線での評価を通じてより良い施策につなげることを意識して取り組んできた。
- ・亀岡市全体で多くの事業があり、それらを評価していく作業は大変だが、皆さんからのご意見をいただく中で、私自身も多くの気づきを得てきた。
- ・堅苦しい雰囲気は無しにして、活発な議論をいただければと思う。

事務局

- ・次に部会長を補佐する副部会長を選出していただく。亀岡市総合計画審議会部会設置規則第4条第4項により、副部会長は委員のうちから部会長が指名することとしている。

原田部会長

- ・前回に引き続き、手塚委員に願います。

事務局

- ・手塚委員は正面の副部会長席へ移動し、一言ご挨拶を。

手塚副部会長挨拶

- ・京都先端科学大学の手塚です。大学では学生と一緒に亀岡祭の調査等のお手伝いをさせていただいている。
- ・進行管理部会の委員としては前回に引き続きであるが、少しずつ進行管理の仕組みが整いだしたと感している。

3 議事

事務局

- ・次第に従い、議事に入る。会議の進行については、亀岡市総合計画審議会部会設置規則第5条第1項に基づき、原田部会長に願います。

原田部会長

- ・それでは、議事(1)から(3)について、事務局から説明いただいた後、ご意見ご質問を賜りたい。

(1) 第5次亀岡市総合計画の進行管理・行政評価について

事務局

- ・資料No.1に基づき、第5次亀岡市総合計画の進行管理及び行政評価の仕組み、令和4年度の行政評価スケジュール等について説明。

(2) 第5次亀岡市総合計画「事業一覧」について

事務局

- ・資料No.2及び総計冊子に基づき、事業一覧の活用方法について説明。

(3) 令和4年度の進行管理・行政評価について

- ・行政評価（現地視察及びヒアリング）対象事業の選定

事務局

- ・令和4年度の行政評価対象事業を何にするのか、というところから審議していただく。
- ・総計における「節」単位を1つのテーマと考え、2つのテーマ、その中にある具体的な事業として6つ

程度の事業を選定していただく。

原田部会長

- ・政策というものはピラミッドのような構造で、たとえば第1章の「互いを認め合う、ふれあいのまちづくり」が頂点にある「政策」で、そのために何を行うのか、という部分で政策の下に「施策」がある。この施策にあたるものが「人権尊重・平和」のような節のタイトルだと考えてもらえばよい。さらにその下に具体的な「事業」がある。このつながりを意識していただきたい。
- ・4次総計のヒアリングでは、多くの事業を扱ったことから、1つの事業にかけることのできる時間が少なく、事業の全体像が見えてこなかったこともあり、今回、初めての試みとして現地視察とヒアリングの2段構えで行政評価を行うことで、じっくりと評価に取り組みたいと考えている。
- ・それでは、委員の皆さんの興味、関心がある分野について、ざくばらんに審議していきたい。

A委員

- ・まちの魅力を高める事業、まちの基盤を支える事業、という大きなテーマの中から事業を選べたらいいのではないかと考えた。具体的には、子育て支援、防災、ジェンダー、といった視点など。

B委員

- ・京都サンガF. C. がJ1に昇格したこともあり、京都サンガ応援商店街づくり支援事業や、観光資源ネットワーク化推進事業など、やはり商業、観光の分野に興味がある。

C委員

- ・400を超える事業の中、興味関心も広がるが、第1章第3節、移住定住の分野。空き家の問題、転出超過の課題等があるが、亀岡市の魅力を発信できれば、転出も少なくなるのでは。
- ・第6章第3節、観光の分野。亀岡市の将来展望をさまざまな視点で考えるが、やはり賑わいが大切。多くの人を訪れるまちだと、子どもたちも誇りを持つことができる。
- ・亀岡の将来が明るく発展してくような視点で、どのような施策を推進しているのか、進行管理部会として見ていければと思う。

D委員

- ・事業費の大きな事業や新規事業については進捗状況が気になるころではある。
- ・章、節単位だと、第1章第3節の移住に関する事、第6章第3節の観光に関する事。

E委員

- ・第3章第5節の中でも、地域医療の推進について、子どものいる親の視点から、休日夜間の救急対応状況など、気になる点が多い。地域医療の充実は移住定住にもつながると考える。
- ・第4章第1節、就学前教育・学校教育の中でも、遠隔ICT教育の推進等について関心がある。
- ・第7章第1節、道路の分野。夜間の危険性も含めて、交通安全対策の推進については、関心のある方が多いのではないかと。

F委員

- ・第7章第2節、公共交通の分野。特に川東地域の交通アクセスについて、どのような状況にあるのか、確認したい。

原田部会長

- ・第3章第5節、地域医療について。医療費の無償化も良いが、必要な時に診てもらえる体制づくりも大切だと感じる。
- ・第4章第1節、遠隔ICT教育の推進について、例えば京都市ではコロナ禍による休校中もオンラインで授業を継続されていた。こうした教育面についても、移住を検討されている方にとっては重要なことではないかと感じる。
- ・亀岡市では人口が減る、転出が増える波が2回あり、就職を機に転出するものと、年齢が40代の子育て世帯の転出が多い。子の中学校進学を機に、より良い教育環境を求めて、というものかと思う。

A委員

- ・移住促進の点から課題だと感じるのは、賃貸できる空き家を求めておられる方は多くいるにも関わらず、そうした空き家の登録が少ないこと。移住希望者は亀岡ならではの住宅に関心があるため、新築物件には関心を持たれない。そうした部分のミスマッチを普段から感じる。

原田部会長

- ・大阪で開催される移住定住イベント等での亀岡市ブースの人気はすごい。
- ・学生たちの間でも亀岡市で働きたい、という声を聞くが、亀岡で働くことについて楽しく紹介するようなホームページ等がないため、個別企業の採用ページを見るのだが、募集要項に「高卒以上」と記載されているものもある。この場合、企業側は大学卒も含めた意味で書いているのだが、大学生から見ると自分たちは対象ではないと感じてしまう。情報の伝え方ひとつでそうしたミスマッチが生まれることがもったいなく感じる。
- ・皆さんの意見をホワイトボードに書き出すと、移住定住がひとつのキーワードとなる。このテーマにおいて現地視察を考えると、どのようなものが考えられるだろうか。

A委員

- ・移住定住促進施設「離れ」にのうみの利用状況や、空き家相談などのイベント関係になるのでは。

原田部会長

- ・空き家バンクを通じて賃貸に出した方や、移住されてきた方、自治会の方などにお話を伺う機会があればよいのでは。
- ・第3章第5節、地域医療の分野ではどうか。コロナ禍で現地視察が難しい面もあるだろうが。

E委員

- ・医療関係に勤めていることもあり個人的に気になる点として、休日急病診療所の担当医を亀岡市医師会で分担するのだが、内科専門医の確保状況に不安を持っている。京都中部総合医療センターは第二種感染症指定医療機関でもあり、休日夜間の受け入れが難しいようだ。
- ・そのような状況で亀岡市立病院の救急応需率が気になる。常勤の小児科医がひとりだけということもあり、世間の評判では公立病院でありながら救急応需率は低い、とされている。

原田部会長

- ・世間の評判、いわゆる噂話であったとしても、誤解した解釈をされているのであれば、逆にしっかりとデータ等に基づいた説明をいただく機会があってもよいのかもしれない。
- ・第4章第1節、就学前教育、学校教育の分野ではどうか。学校給食もこの節の中にあるが、自治体によって学校給食には特色があり、移住定住を検討するひとつのコンテンツになるものとする。
- ・第6章第1節の商業、第3節の観光の分野については、行政評価として難しい側面もある。あくまでも事業主体は民間であるという状況で、行政がどこまで、いつまで引っ張っていく必要があるのか。
- ・第7章第1節、道路の分野ではどうか。

E委員

- ・通学路の安全は気になるところ。歩道幅が狭いところも多い。

原田部会長

- ・第7章第2節、公共交通の分野ではどうか。

F委員

- ・皆さんと一緒にバスに乗って、川東地域で降りて、次のバスを延々と待つ、という視察はいかがでしょう、と提案したくなるぐらい、本数が少ないと感じる。まだ免許を持っていない方や、免許を返納した方など、どうされているのか気になった。

原田部会長

- ・行政側としても、公共交通を維持するための需要数などの基準を定める、線引きをすることも大事かもしれない。この基準を満たさなければこの公共交通は維持できない、これだけの需要がないのであれば別の公共交通も維持できない、など。勇気がいることだが、そうでなければ、行政がいくらお金を出しても足りないこととなる。
- ・スクールバスに一般の方も乗れるようにすることで本数を確保する自治体もあるが。

事務局

- ・亀岡市でも路線によっては可能で、川東地域のスクールバスは一般の方の混乗が可能。

A委員

- ・通しNo.349、公共交通におけるモーダルシフトの推進とは、具体的にどのようなことか。

事務局

- ・モーダルシフト(環境負荷の低減を目指した輸送移動手段への切り替え)を推進するための具体的な事業として、調書では複数の具体的施策のために「公共交通の利便性向上」という1つの事業を行うこととしている。具体的には、コミュニティバスやふるさとバスのダイヤ改正により、より多くの人々が利用しやすいバス交通を目指した取り組みや、地域主体型交通に対する支援の実施など。

原田部会長

- ・公共交通の取り組みは旭町などで行われていると聞かすが、まだまだ途上であると思う。

事務局

- ・地域主体型交通については、東別院町で以前から取り組まれているほか、旭町など3地区で新たに取り組みを始めたところ。

原田部会長

- ・コロナ禍であることを考慮し、3章5節の地域医療、6章1節の商業、3節の観光の分野については、次年度以降の様子を見て行政評価の対象とする。
- ・残った4つの分野の中から、委員の多数決により令和4年度の行政評価対象を選定する。
～委員による多数決～
- ・令和4年度の行政評価については、4章1節の就学前教育、学校教育と、7章2節の公共交通の分野とする。
- ・現地視察については、4章1節より、みらい教育リサーチセンターにおいて「ICT機器を活用した教育の推進事業」、学校給食センターにおいて「学校給食管理事業、給食提供事業」について視察対応願う。
- ・進行管理部会でのヒアリングについては、現地視察を行う2事業のほか、4章1節より「中学校選択制デリバリー弁当(昼食提供)事業」、7章2節の具体的施策に掲げる、地域に根差した持続可能な公共交通の実現、のために取り組まれる「公共交通の利便性向上」事業について、具体的な話を伺うこととする。

4 閉会

以上